

ピースあいち開館2周年記念

賑わった「ピースまつり」

—2009年5月5日(火・祝)・6日(水)—

開館2周年を記念して企画された「ピースまつり」が、5月5日と6日の2日にわたって開かれた。当日は2日間とも雨模様であったが、中日新聞名東販売店の協力でPRのチラシをご町内に配布することができたこともあって、終日人の出入りが絶えなかった。来館者は2日間でざっと500人を数えた。



無料開放で賑わう2階展示場

オープニングでは、武藤佳子さんをはじめ「名東ピース合唱団」のコンサートで、美しい歌声が流れた。写真展は、「WFP世界給食プログラム展」と「浅見裕子の沖縄写真展」の2つ。子どものおもちゃを無料で修理する「おもちゃ病院・とんかち」が出張しての開店。壊れた玩具を持った親子連れが幾組か訪ねてきていた。なかにはお母さんのヘアドライヤーを直してほしいという注文もあった。

一方、玄関先の広場では、沖縄物産展と産地直送の野菜市が立ち、人だかりがしていた。イベントでは、子どもに絵本などを読み聞かせる集いがあり、学童保育のお父さんらで結成したロックバンド「ベガサスちちバンド」の演奏もあった。平行して開かれたのが、「名古屋大学医

学部九条の会」と「あいち女性九条の会」の運動を紹介し、PRするコーナー。

「ピースあいち」のメンバーが初めて取り組んだ「バザー」ではおよそ350点の品を揃えた。その殆どが売れて、その売り上げは約10万円。売れ残ったものは20冊ばかりの書籍のみだった。自前の「フェアトレードカフェ」も店を開き、一杯100円で提供したが、この売り上げも16,500円。わずかながらも利益を上げた。

正面のガラスのサッシを開放し、2日間とも入館無料としたが、各所にカンパの箱を置いた。そのカンパが31,000円。雨天にもかかわらず、結構賑わった「ピースまつり」だった。気をよくしたスタッフらは、来年もやりましようよと語りあっていた。



武藤佳子さんのコンサート



ピースあいち友の会のバザー



名東ピース合唱団



WFP世界給食プログラム展



九条の会PRコーナー



おもちゃ病院・とんかち



ベガサスちちバンド



産直野菜市

ピースあいち開館2周年記念特別展

教科書にみる戦争と平和

—2009年5月12日(火)～7月11日(土)—

教科書は時代を語る—こんな狙いをもって、このたびの特別展を企画した。会期は、当初2009年5月12日から6月27日までとしたが、会期中に名古屋市教育委員会の名義後援が得られたこともあって会期を7月11日まで延長した。この特別展の開催に当たっては、県下丹羽郡扶桑町の教科書資料館館長・鈴木實さんの格別の協力をいただいた。



古い教科書に見入る人々

特別展のテーマは次の6つである。①学校制度の変遷、②教科書は時代とともに、③十五年戦争と教科書、④唱歌と習字にみる時代、⑤女性に何を教えてきたか、⑥今、教科書は…。

特別展の入場者は595人。入館料の他に別料金をいただいたが、来館者の多くの方が入場され、特別展を見るために来られた方も少なくなかった。なかには会期延長の件を伝えると、「本当ですか！今度はしっかり時間を取って来ます」と喜ばれた方もあった。

唱歌を懐かしみ、何人かで合唱される方たち、

熱心にメモをとる女子学生や台湾の教科書を熱心に読んでおられた高年の男性の姿もあった。

特別チームで取り組む

昨年12月に10人で特別チームを編成、6つのテーマを分担して資料を収集、展示構成案を作成。6回にわたる検討を経て、展示パネルを作成した。オープン直前の5月10日、11日に事務局スタッフの宮原大輔、村上扶佐雄両氏の指導のもとに約50点のパネルの製作・設置、教科書約80点の展示作業を終了することができた。



教科書は時代とともに



国定教科書が求めたもの



唱歌と習字にみる時代

来館者のアンケートから

いくらか知っていたつもりでしたが、こうやって軍国少年が作られたのだ、それ以外の子どもは育つ余地がないほど、がんじ絡めだったことが、ずっと見てくるうちにわかってきました。

(名古屋市女性59歳)

戦前の教育は国策に沿ったもので、そういった教育によって子どもたちが戦場に向かったのだと思うと悲しくなりました。(岐阜市女性19歳)

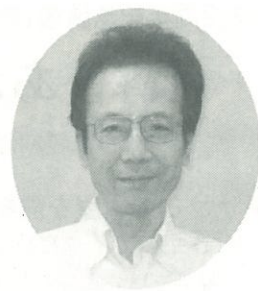
国定教科書の内容については、本などで読んで多少知っていましたが、書写の教科書を見るのは初めてで驚きました。「靖国神社参拜」「クニヲマモレ」など、繰り返し書いていたことを知りました。(知多市女性22歳)

今では信じられないことが(天皇のために死ぬことが親孝行など)あたり前のように教えられていたことが衝撃でした。(一宮市女性19歳)

特別展に
寄せて

「沖縄」から「教科書」へ

ピースあいち事務局長 宮原大輔



教科書展で展示する実物の教科書を声に出して読んでみた。

「テンノウ ハイカ バンザイ」「キグチコヘイハ テキノ タマ ニ アタリマシタ ガ、シンデモ ラッパ ヲ クチカラ ハナシマセン デシタ。」「何のために軍（いくさ）には出で候（そうろう）ぞ。一命を捨てて、君の御恩（ごおん）に報（むく）ゆるためには候はずや」

自分が当時の教室の中の児童であるとして、あるいは教師であるとして読んでみた。本当にこんなことを教えていたんだ、と思った。そこには命の大切さを教えるものはなく、死を礼賛し、美化し、純化した、死の教育があった。皇民化教育を追体験するかのような感覚の中で、昨年の沖縄展と今年の教科書展が脈絡を持ってつながってきた。

「沖縄戦において、日本軍は、敵は「鬼畜」として捕虜となった際の恐怖を煽り、一方では敵の捕虜となることを許さず「軍民共生共死」が

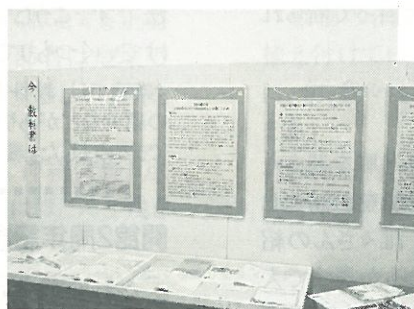
強いられた。その中で強制集団死も起きた。沖縄展では沖縄戦の特徴として「皇民化教育」を取り上げた。教科書展を開催することは、皇民化教育の実態を実物資料で確認することでもあった。

過去の教科書が教えるものは、こんな教育を繰返さない力があるのかという問いかけでもある。戦争の時代の教科書を読むことは、ひるがえって現在の教科書を批判的に読むことにつながり、今の教科書、教育を問い直すものとなる。

いま日本は平和で、戦争で死ぬ者はいない。しかし自殺者は年間3万人と言われ、毎日のように何十人もの人々が死を選んでいる。平和なのに、である。命を大切に教育、生きることがを主張する教育はできたのであろうか。戦後、死の教育を完全に払拭したのであろうか。戦争に抵抗する力は身についたのだろうか。教科書展を開催して、そんな疑問がわきあがった。



女性に何を教えてきたか



今、教科書は



見学風景

「習字」の手本を見ていて、この大日本帝国で生きることの厳しさが胸に迫ってきました。身震いがする気分でした。

「かみなりの鳴る日に古き本（教科書）を見し」
(名古屋市男性70歳)

教科書展はいろいろな面（検定合格・不合格、他の国のもの等）から教科書が見られて良かった。
(犬山市女性20歳)

今の教科書で、盧溝橋事件が日本軍のでっち上げにもかかわらず、それが隠されていることに懸念を感じる。
(名古屋市男性61歳)

将来教師を目指すものとして、とても興味深かったです。平和を教えることのできる先生になりたいと思いました。
(名古屋市女性19歳)

開館2周年記念講演(要旨) 6月13日(土)

「教科書あれこれ」

教科書資料館館長 鈴木 實

脱サラして本屋を開業

私はトヨタ系の企業に14年勤務しましたが、昭和43(1968)年に脱サラして本屋を始めました。本屋を開くに当たって、第二の人生だから何か変わったことをしてみたいと思いました。

その頃、私の友人が新しい商売を始めました。古紙交換の大本(おおもと)です。そこに大正10(1921)年頃の教科書が3、4冊あったんです。これをもって来て親父に見せたところ非常に喜びましてね、もっと他にないかということで、また彼のところに行って、大正時代の本を一生懸命探したんです。

そのうち、親父の代のものでなく、自分の時代のものも集めてみよう、もっと古いものも集めてみようと思ったのです。こうして岐阜、滋賀、福井、石川、富山、長野など中部10県下を廻って教科書を集めたのです。

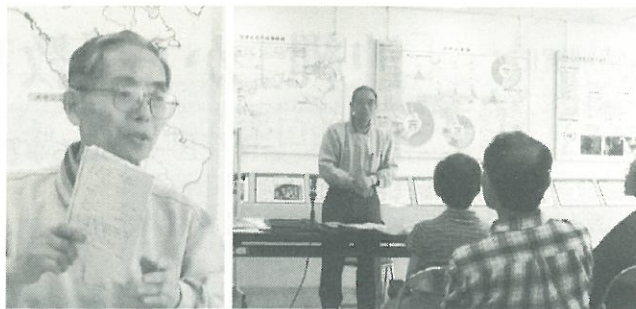
骨董屋とか古本屋さんには一切飛び込まず、あくまでも民家に飛び込んで、「将来資料館を作りたいので、教科書があったら分けてください」と。それだけの言葉で毎日10軒どころか何百軒と歩きました。気いよく協力してくださる方もありましたが、車のナンバーを見て、「尾張ナンバーか、自分のところからタダ同然で持って行って、都会で高く売って金儲けするんだらう」と言って断られたこともありました。

元校長先生の紹介で…

そこで考えたのです。その地区で定年退職を迎えた校長先生のお宅を教えてもらい、その先生をお訪ねして収集の趣旨を説明しました。そして、「誰々さんの紹介で来ました」って言いますと、入口どころか奥まで入れてもらえました。玄関先に蔵があるお宅には教科書はありません。お蚕さんを飼っていた中2階のある家には残されていました。

教科書は布切れを裂いたもので括ってありました。藁縄では本の角が傷むからです。私は車の中に「ご仏前」という袋を用意していました。段ボール箱5つなら幾ら、3つなら幾らと自分で大体値段を決めておいて、仏壇に供えてから教科書を頂いてくるという方法を取りました。

私には本業がありました。4人の子どもを育てながらの生活もありますので、毎日教科書の収集をやっているわけにもまいりません。お小遣いの範囲内でしか集めませんので、一年経ってもあまりたくさん収集できないのです。ですから、ここまで収集するのに40年もかかってしまいました。



鈴木 實氏

熱心に聞く観客

手にとって触ってもいい展示会

どれだけ収集しても、音楽の教科書が出てこないのです。理科の教科書も少ない。どうしてかというと、学校の就学率をよくするためです。明治時代に文部大臣からお触れが出ていまして、音楽と理科の教科書は子どもには売るなというお達しがあったのです。父兄の経済的な負担を軽くするためだったのです。音楽の時間では、先生が黒板に書いて生徒が写せばいい。そして先生が弾くオルガンで歌を歌ったということです。

現在の私は、どんなことをやっているかと言いますと出張展示会です。既に40カ所以上は開いています。ピースあいちの展示は長期にわたりますが、いつもは大体2~3日の予定です。展示する教科書は、すべて裸で展示します。300冊でも500冊でも裸で展示します。そして私が立ち会い、係の方にも2~3人出でいただいて、自由に手に取って触ってみてくださいという展示方法です。こうして今まで続けてきましたし、これからも続けていくつもりです。

(講演では、教科書をいくつか示されてのお話や各地の記念碑の紹介などがありました。誌面の都合で、教科書収集の話題でまとめました。編集担当)

開館2周年記念講演(要旨) 6月20日(土)

「沖縄と教科書を語る

—戦前の教育・教科書検定問題—

名古屋市立大学大学院教授 阪井 芳貴

「沖縄対話」から始まった教科書

教科書は特に初等教育において、子どもたちの成長に大きな影響力を持ちます。それがマイナスの方向に強力に進められて起こった悲劇がアジア・太平洋戦争で、特に沖縄は他の都道府県より激しい形である方向に傾いていきました。

沖縄は、明治政府の廃藩置県で、他府県より12年遅れの明治12(1879)年、「琉球処分」という形で沖縄県になります。「処分」で近代化が始まる。これは今日につながる沖縄の悲劇、位置づけを極めて象徴的に示しています。

その翌年には「沖縄対話」という教科書が作られました。沖縄方言を標準語に翻訳してあります。沖縄では、離島の小さな島々にいたるまで、網羅的に小学校が作られ近代化が進められました。子どもの教育を通じて、沖縄の人たちに標準語をマスターさせようという意図がありました。言葉の問題は大きなネックで、沖縄処分から沖縄戦までは、教育という意味では、ひたすら言葉の戦いだったという見方もできます。

そのため国定教科書前には、沖縄県用の小学校読本が何段階か発行されています。沖縄は本土とは少しずつ遅れるんですが、やがて同じになっていきます。教師も、明治時代は本土から派遣された教師でしたが、処分翌年に沖縄県師範学校が作られて教員が養成され、1885(明治18)年頃から徐々に沖縄人の教員が出てきます。

矛盾を抱えた沖縄の教員

教育の内容は、天皇のためなら命を投げ出す国民を作る「皇民化教育」です。天皇という存在が全く身近になかった琉球王国に生まれ育った人々には、他の植民地と同じように教えていったというのが沖縄の戦前の教育の特色です。

一方、興味深いことに、大正8(1919)年に郷土教育を重視しなさいという文部省の通達が出され、全国で一斉に小学校に郷土資料室が設営されます。昭和に入ってからたびたび言われ、教師は郷土史研究会を作ったりします。これは沖縄の教員にとってはとても矛盾したことだったろうと想像しています。文部省は地域の特性を重視したのではなく、「郷土を愛することは国を愛することだ」と言ったのですね。

子どもたちがどう変わっていったのか。沖縄は焼き尽くされたので、教科書、雑誌、綴り方などはほとんど残さ



阪井芳貴氏

大勢の人がつめかけた

れていないのですが、わずかに残った物からは「皇民化教育」が子どもたちに浸透していく様子を知ることができます。

今、我々がしなければならないこと

一昨年の教科書検定問題は、集団自決について日本軍が命令を発したのか、強制したのかということについて争われた裁判を背景に、真実をもう一度検証しなければならないということが浮かび上がってきました。物的証拠がないものをどう埋めるかというとき、最も重要なのは直接体験した人たちの証言なんですね。戦争の記憶は自分が死ぬ時に消えていく、それでいいと思っていた人たちが、検定問題をきっかけに重い口を開いた。それが、教科書検定問題がもたらした唯一のメリットだと思っています。

戦前の国定教科書が、知らないうちに軍国主義を植え付けていくのに使われたのと同じ道を歩まないように、今、我々はチェックしておかなければならないと思います。

(講演では、教科書をいくつか示されてのお話でしたが、誌面の都合で割愛しました。編集担当

心安らく1枚の写真

2階展示室の写真から

「ピースあいち」の2階の展示室には多くの写真があります。

アメリカの報道写真家ジョー・オダネルが撮った「焼き場の少年」という写真があります。10歳ぐらいの少年が死んだ弟を背負い、焼かれるのを待っている写真です。ジョー・オダネルは再来日して、この少年を探しましたが、見つめることはできませんでした。小中高生に背景を説明すると一様に顔が歪みます。心が痛む写真です。「靖国の少年」という写真も悲しい写真です。東京大空襲・沖縄・原爆等々、戦争の写真ですから、酷く、悲惨なものが多いのは、事

実の重さです。

そんな中に、「お母さんの面接日」と題された写真があります。学童疎開をした子どもたちを家族が見舞うところを撮ったものです。2人の母親の笑顔には優しさ



と慈しみがあふれています。子どもたちも笑顔ではちきれています。幸せなひと時を切り取った見事な写真です。それを見ていると心が安らぎます。この写真は平和な時間(とき)の大切さを語りかけています。

教科書は人がつくる、 そして教科書が人をつくる

教科書展を見たボランティアの方に感想を寄せていただきました。

◇教科書の思い出

石原 禎三

私が小学校へ入学した頃の教科書は全て有償。そして教科書には「文部省検定」と書いてあったと思います。それが何を意味するかは考えたこともありませんでした。私たちは教科書に書いてあることは正しくて、先生の言われることは絶対だと信じていました。たぶん、このことは戦前の子どもたちも同様だったでしょう。

しかし今回の「教科書展」は、戦前の子どもたちは国定の教科書を使って、私たちとは全然違うことを信じていたということを教えてください。平和な時代に生きる私たちはつくづく幸せであり、この幸せは未来の子どもたちにも伝えてゆかなければならないと語りかけています。



生まれた街は済南です。日本軍に最初に占領された所です」。昭和7（1932）年に起きた済南事件のことかと思います。彼女の体験ではなく教科書などからの知識かと。本で読んだことはずっと記憶され、それがとっさに出たと思います。

それに対して私は、アメリカの方に「私の故郷はアメリカの爆撃で焼け野原になった」と言うのはためらいます。国民性の違いでしょうか。

◇戦前への回帰を心配

稲田 浩治

期待に背かぬ、見応えのある展示だった。

戦前の「国定教科書」がいかなるものかがよく分った。

その柱になった大日本帝国憲法や教育勅語にも触れていて、よかった。しかし、戦前の教科書類が戦争に果たした役割の大きさ、忠君愛国の教科書が子どもたちの魂まで縛っていたことに強い憤りを覚えた。

戦前への回帰が心配される今日、「戦争が廊下の奥に立ってゐた」（渡邊白泉）という状況にだけは、してはならないと思った。



◇教育は科学だ

井戸 早苗

入口のパネル、子どもの明るい顔、みんな子ども（弟や妹）を背負って遊んだ懐かしい風景だ。この子どもらを富国強兵、忠君愛国の国策に順応させた国定教科書、生命も暮らしも破壊されてしまった。教育は国策に左右される事もなく「科学だ」という家永三郎氏の言葉は重い。

国家戦士、企業戦士をつくらない方向で、生命や生活を大切にする教育、男女で創りだす家庭科共修など、進めるべき方向かと思った。



◇音楽で「同期の桜」に驚く

大久保 清子

会期を延長しての2周年記念展。初めて目にする明治、大正、戦前の教科書です。音楽の教科に「同期の桜」がのっているのは驚きが。また教育勅語が明治23（1890）年11月から昭和23（1948）年失効するまで発刊されていたことにも驚きでした。

国全体が戦時色になっていくなかで、心の中で戦争に反対していた人は大勢いたことと思いますが、ほとんどの人々は家族や生活のことを思って黙っていたと思います。遠い昔のできごとと片付けてしまうのではなく、孫やその次の世代に悲惨さや無意味な戦争を起こさないことを伝えていくとともに、若い方たちに来館し、学んでいただきたいと思います。風化させてはいけないできごと。



◇外国人の発言に戸惑い

稲垣 一雄

教科書展の中のシンガポールの教科書に関する本は発行当時、講演会で紹介されて読んだ記憶があり、そのせいか特に印象に残りました。

現在、私は、ボランティアで在日の外国の方に日本語を教えていて、外国の方と接することも多く、彼らの思いがけない発言に戸惑うこともあります。例えば中国の女子大生から「私の



◇教科書を使うのをやめた

鹿島 顕二

「教科書展」には、その時代を色濃く写し出したイデオロギーが滲みでている。時代のただ中にいた多くの入たちは、それを意識することもなく影響を受けたのだろう。今も同じことなのかもしれない。



教科書を使う仕事をして39年目になる私は、いつの頃からか教科書を使わなくなっていた。それは自分の価値基準ができ、それに基づいた教材を使うようになったこと。もう一つは、国の検定が日本にはあるからだと思っている。認められない事実とか価値観は、誰にも決めることはできないと思っているからだ。

◇アイ シャル リターン

—あたらしい憲法のはなし—

佐藤 和夫

2階展示室の出口右側には『あたらしい憲法のはなし』という小冊子が展示されていますが、その中に「戦争の放棄」という項目があります。先日も、ガイドした大学生に「感動的な文章ですネ。誰が書いたのですか?」と聞かれましたが、これは昭和22(1947)年8月、文部省によって発行され、全国の中学生が学んだ教科書です。

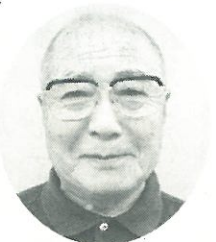


今こそ、この教科書が全国の中学で復活されると共に、世界中に「平和の理念」として広められることが望まれます(あつ、その前に先ず、全ての国会議員に読ませる必要があるんだっけ)。私が展示ガイドする時には、見学者にこの「戦争の放棄」の項を抜粋したものをお土産として持ち帰ってもらっています。「是非、家の方と一緒に読んで下さい」と一声添えて。

◇教科書の墨を塗ったとき、
頭にも墨を塗った

杉村 公男

戦中、戦後直後に自分たちの使った教科書の内容が全く記憶にない。空襲・訓練・勤労奉仕などで十分に授業ができなかったためであろうか。それとも教科書に墨を塗るとき、頭の中全体にも墨を塗っ



たのだろうか。60年余も経った今、古い教科書に再会できて懐かしい。

最近の教科書を見ると内容が豊富で美しく夢のようである。今の子どもたちは幸せである。しっかり勉強し、戦争のない世界を築いてほしい。

◇懐かしさとほろにがさ

瀬戸 暢子

さまざまな教科書を眺め、手に取り思った。そこにはある種懐かしさやほろにがさを覚えた。

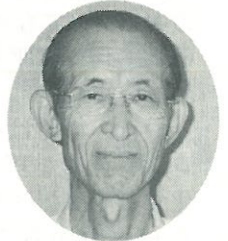


人間にとって耳学問以外の知識の入りどころは、学生時代とりわけ小中学生の頃は教科書がすべてであった。それだけに好奇心と期待も大きかった。そしてその無垢の心をないがしろにしたのも教科書である。それは成人し社会での経験や知識を得たことによる。教科書が全てではないが、一人ひとりの心に素直に溶け込み、納得し、共有できるものがほしい。

◇永遠の平和を忘れてはならない

堀田 兼成

墨塗りの教科書を見て、塗りつぶされた以前の教科書で学んだ生徒さん、国策により、純粋な心も次第に洗脳され、あの戦争で「お国のため」と犠牲になられた多くの人を想い、心から「合掌」しました。今も残る戦争のキズ跡、絶対風化させてはならない「負の遺産」を次世代に、平和の大切さを伝えていきたいと、今迄以上に思いました。



館の入口にある銘板に刻まれている加藤たずさんのメッセージ「永遠の平和を」忘れてはならない。



「ピースあいち語り手の会」を作る —戦争の記憶が薄れていく—

戦争体験の風化が叫ばれて久しい。先の戦争における戦場体験、戦時体験を持つお年寄りは年ごとに少なくなっていく。「ピースあいち」では、毎年8月に「戦争体験者による語りの集い」を開いている。10人ほどの方々を招いて、お話を聴いている。

日常的にも「ピースあいち」の「語り手」は、来館された団体、グループに語っているし、学校での平和授業などに出かけている。県内各地には、「空襲を記録する会」があり、「戦争展」を開いたりしている。そこにも「語り手」がいる。

そこで「ピースあいち」では、そうした「語り手」の方たちの会の設立を思い立った。お互

いに連絡しあい、助け合うゆるやかなネットワークである。それが「ピースあいち語り手の会」である。すでに6月15日に準備会を開き、広く関係者に呼び掛けて7月27日に発足の集いを持った。

その目的は、「戦争の悲惨さ愚かさ、平和の尊さを伝えるために、相互に連携して戦争体験を語り伝える」ことである。当面は「語り手」自らの体験報告であるが、将来的には、こうした「語り手」の跡継ぎを作っていくことにある。今後の具体的な活動としては、①「語り手」としての派遣、②定期的な「語り手」の集い、③記録集の発行、④「語り」のビデオ収録などを考えている。

●ピースあいちに咲く「アンネのバラ」

今年5月末に『アンネのバラ (Souvenir de Anne Frank)』の苗2本を、ピースあいちの花壇に植えました。「アンネの日記」の作者アンネ・フランクの父オットー・フランク氏がベルギーの園芸家によってもらった新種のバラです。極限の中にあっても他者をいたわり、自然を慈しみ、そして何より平和を願ったアンネの心が込められています。

つぼみの時は赤く、開花し始めると黄色、オレンジ色になり、さらにピンクへと花の色が変化する可憐なバラ。

6月中頃から7月初めまで次々と花が咲いて、ピースあいちに彩りを添えてくれました。隣の平和地蔵さんも心なしかニコリされているようでした。



●「語り手」の話を聞いた

中村区の小学校から送られてきた感想文

○先日はいろいろ戦争と平和について教えていただき、ありがとうございました。私は戦争が15年も長い間続いて、みんな悲しい思いや苦しい思いをしていて、人が世界の人人々を傷つけて、みにくいあらしいはみんないやだと思うので、絶対に戦争はダメ!ということがよく分かりました。

(K-I/女子)

○戦争の話をしてくださって、ありがとうございました。前まで教科書などで読んで戦争がひどいという事を知っていましたが、戦争のたいげんだんを聞いたり、写真を見たりして戦争がひどい、もうやっではいけないと感じました。

(N-A/男子)

○戦争とはどのようなものか、命がどれだけ価値があり大切なものが、すごく良く分かりました。私はもう二度と戦争をしたくないです。世界の国の戦争をなくしたいです。そのような事がピースあいちを見学させてもらって分かりました。もう一回家族などで行きたいです。(Y-A/女子)

8月30日(日)から9月7日(月)まで

ピースあいちは夏期休館とさせていただきます。

●これからの催し

「原爆と人間」パネル展示

7月21日(火)～8月29日(土)

「戦争体験者の語りの会」

8月1日(土)～15日(土)

毎日 午後2時から3時頃

1日(土) 杉山常男さん「ニューギニアにて」

4日(火) 吉田公幸さん「北区の空襲体験」

5日(水) 大脇雅子さん「マサコの戦争」

6日(木) 井戸早苗さん

「空襲体験と戦時下の暮らし」

7日(金) 木村喜久一さん

「名古屋陸軍軍造兵廠千種製造所」

8日(土) 山田扶美代さん「模擬原爆の体験」

11日(火) 小笠原淳子さん「学童疎開体験」

12日(水) 森島典子さん「満州引揚げ体験」

13日(木) 仲直敏さん「長崎原爆体験」

14日(金) 松本つなさん「女性軍属の体験」

15日(土) 稲垣慶子さん「長崎原爆体験」

「金城学院中・高生による発表展示」

「15歳の語り継ぐ戦争」

わたしの聞いた戦争・見た広島」

8月11日(火)～29日(土)

「天野鎮雄さん朗読会」

8月22日(土) 午後4時30時から

「あんやたん」写真展「沖縄タイムズ」

9月29日(火)～10月17日(土)

さまざまなイベントを展開した2年目 — 第17回総会が開かれる —

2009年6月20日、「ピースあいち」の1階ホールにおいて、第17回の通常総会が開かれた。総会議長には竹川日出男さんが選ばれ、議事録署名者には赤澤ゆかりさんと畑島貢さんが指名された。

総会の冒頭、野間美喜子館長は挨拶のなかで、大要次のように、この1年を振り返った。①加藤たづさんから寄付の申し込みをいただいていた建設用地の移転登記を、この2月に済ませた。その譲渡に関わっては、みなし譲渡所得税が加藤さんに課税される。但し、その使用目的が公益と認められる場合は、減免の対象となる。その申請を行うために定款の変更を必要とするので、本日の議題に供している。②「ピースあいち」の運営については、ようやく体制が整ってきている。事務局次長が松本銀子さんから竹内宏一さんへ変わったが、収蔵品や図書の整理、ホームページの立ち上げなど、仕事は順調に運んでいる。さまざまなイベントも企

画され、『ニュース』も刊行されてきた。これらはボランティアの皆さんによって支えられている。団体見学での展示ガイドの体制も整い、「語り手」のネットワークも作られようとしている。③当初から、この運動に携わり運営委員、監事として生みの苦しみを支えてくださった田中太門さんが亡くなられた。ご冥福を祈るばかりである。



このあと、2008年度の事業報告、決算・監査報告を承認、次いで2009年度事業計画、予算を決定し、役員と定款の変更を承認した。最後にこれからの運動の課題としての「会員の拡大と財政基盤の確立について」協議して総会を終えた。

毎月第2土曜日は「映像による学習会」

「ピースあいち」での企画展をはじめ、朗読の会やコンサートなどのイベントの企画は、すべてイベント班が担当しています。この映画会の企画の発端は、「ピースあいち」から戦争と平和の映像を発信していきたいという思いからでした。

第1回目(07年11月)は、担当した吉田稔さんのこだわりもあって「映画・日本国憲法」を上映。当初は戦争と平和に関する資料的な映画、テレビの特別番組(例・NHKスペシャル)を中心に考えていたのですが、運営委員会の意向もあって、劇映画の中から「戦争と平和」をイメージできる作品を選んでいくことにしました。

さらに夏場の夕方4時半は、まだまだ明るいために

暗幕も設備して(08年4月)、一昨年の一周年企画「沖繩戦特別展」開催時の5月10日(土)、今井正監督「ひめゆりの塔」の上映から、毎月第2土曜日の上映を本格的に始めました。

以来今年8月8日(土)「ひまわり」まで14本上映してきました。その都度、周辺住民への各戸チラシ500枚配布と名東図書館、コミュニティセンター4館へのチラシ置きを続けています。



涙で写真が滲んだ

「第五福竜丸展」をみて

ビキニ水爆実験被災55年の節目に、2009年2月24日から4月11日まで、「第五福竜丸展」が開催された。NHKで「第五福竜丸」の事が放映されたこともあり関心が高く、3月14日には、元第五福竜丸の乗組員の大石又七さんの講演は会場一杯の人が参加する盛況であった。

以下に参加者の感想を紹介する。

展示には多くの写真があった。一枚の写真の前で動けなくなった。久保山さんの遺影を持って東京駅に並んでいる写真である。長女は手で顔を覆い、次女は遺影を持ち、三女は手を合わせ、二人とも虚空を見つめているが、顔はつらさと悲しみに満ちている。あまりに

も悲しい写真に涙が滲んだ。長女が書いた作文も「小さい安子やさよ子は上京していませんが遠くはなれている家でずっと泣きながら小さい手をあわせてかみさまにおいのりしていることでしょう」と父への思いがあふれでていて、胸が締め付けられた。



オバマ大統領は「核兵器をなくしたい」と言った。素晴らしい公約である。核廃絶のために、三度の被爆をした日本は世界に積極的に働きかけねばと思う。

●所蔵品から

2.26事件の号外を読む

昨年末に500を超える部数の新聞のご寄贈をしていただき、その整理に半年かかった。戦中から終戦直後の数年間の貴重な新聞である。

その中に号外が74部入っていた。なぜか号外だけは昭和6年11月から最後は昭和9年6月の間の72部と昭和11年の「2・26事件」についての2部であり、満州事変から2.26事件の間のものである。

これらの号外は現在のものと違い、大きさも日刊紙と同じであり、セットで扱われたものと思われる。内容はほとんど写真による「戦勝、進軍大特集」である。

それは国民精神を高揚させ、国民を満州事変

に始まる対中国戦争に巻き込んでいく大きな力となったと考えられる。



ピースあいちの運営を支えてください。

本館の運営経費は、来館者の入館料と正会員、賛助会員の会費に頼っています。入館者は、初年度が11,881人、昨年度は6,744人でした。3年目の6月末現在入館者は2万人を越えました。

昨年度の月平均は560人ほどですが、8月は夏休みとか「戦争体験を聞く会」もあって、1,075人（うち子ども517人）。子どもさんの多い月は、11月（520人）と2月（210人）でした。昨今は団体の見学が増加傾向にあります。主として小中学校ですが、社会人のグループも少なくありません。

会員は開館当初の295名から昨年度末で764名と拡大しています。正会員（年間会費6,000円）には年間無料で入館できる無料パスの特典があり、賛助会員（年間会費3,000円）には無料入場券を一枚お渡ししております。また団体・法人には「ピースあいち支援団体」（一口1万円）になっていただくことを願っております。お申し込みは郵便局の振込用紙、または「ピースあいち」で直接お申し込みください。

会員になってくださり、この「ピースあいち」を支えてください。

【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・夏期休館・年末年始
- 閲覧料 大人 300円 小中高生 100円
- 2階の常設展示室のほか、1階にも「現代の戦争と平和」というテーマでの展示と戦争に関する図書のライブラリーがあります。1階で開催するイベントに参加される場合は、1階の展示及び図書の閲覧も自由になります。
- 団体やグループ、学校などの見学会で開館時外来館ご希望の方は、ご相談下さい。
- 駐車場がありません。公共交通機関でおいで下さい。
- 夏期休館 2009年8月30日(日)～9月7日(月)

●編集後記

「ピースあいち」へのアクセスは、地下鉄・上社駅からの市バスか、一社駅から歩くかの2つである。徒歩15分ほどの距離。事務局スタッフやボランティアのメンバーの多くは、一社駅から歩いている。

私は雨の日とか荷物がある時には、一社からタクシーを利用する。「〈ピースあいち〉まで…」と告げると「よもぎ台の…」と言わなくても運転手さんは、ちゃんと送ってくれる。「ピースあいち」もようやく地域に根付いたものと思われる。

名古屋の何処でタクシーに乗っても名古屋城とかテレビ塔ほどではなくとも、すぐ判ってもらえるほどに知名度を高めたい。「平和の尊さを訴える資料館は名古屋で唯一だ…」と。(S)

■「ピースあいち」への交通のご案内

